

Title	第三セクター：三陸鉄道についての事例分析
Sub Title	
Author	平井岳哉(Hirai, Gakuya) 藤枝省人
Publisher	慶應義塾大学大学院経営管理研究科
Publication year	1985
Jtitle	
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	修士学位論文. 1985年度経営学 第428号 複写許諾が必要
Genre	Thesis or Dissertation
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KO40003001-00001985-0428

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

学生氏名 平井岳哉

主査 藤枝省人

副査 加藤寛

所属ゼミナール 藤枝省人研

田中滋

第3セクター：三陸鉄道についての事例分析

国鉄分割民営化の論議の中、59年4月に開業した三陸鉄道は全国初の第3セクター方式による経営として、多方面からその成果が注目を集めている。

しかし、ここで注意しなければならないことは鉄道を評価するにあたっては、ただ単に運営する会社の経営状態だけをもって判断してはならないことである。何故なら、鉄道は時間短縮などその直接的効果を通じて、様々な方面に経済的なメリットを与えていると考えられるからである。

その意味から、当論文では三陸鉄道を事例にして、費用便益分析の手法を導入することによって、鉄道が開業したことにより影響を被ったすべての主体についてその経済的側面を含めた効果を明らかにしようとした。

分析の結果、鉄道運営会社・地元住民の各次元においては、その経済性と共に多くの効果が確認され、当鉄道は地元の足として確実に定着していることを物語っていた。

次に地元自治体・国（国鉄を含む）の各次元においては、鉄道を投資として見なした場合のその経済性は否定され、むしろ公共性の観点からこの投資がなされたことが推察できた。

最後にすべての主体を含めた社会次元においては、三陸鉄道の経済性は否定されることになった。ただし、金銭換算が不可能な種々の効果の存在は確認された。

今後分割民営化を含む国鉄の再建、さらには国・地元自治体の財政的制約の中、当鉄道の将来には何らかの形で地元住民による負担増加が必要になってくると判断できる。

なおこの分析結果は、多くの赤字ローカル線にもあてはまるものと思われ、その意味で当研究はローカル線の将来において重要な指標になると考えられる。